

製品名: HUWE1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12290**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|-----------------------------------|
| 希釈倍率 | IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200 |
| 分子量 | 481kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---------------------------------|
| 遺伝子名 | HUWE1 |
| 別名 | KIAA0312 KIAA1578 UREB1 HSPC272 |
| 遺伝子 ID | 10075.0 |
| SwissProt ID | Q7Z6Z7 |
| 免疫原 | ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド |

背景

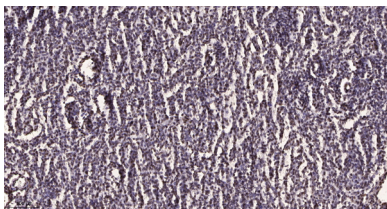
この遺伝子は、E3 ユビキチンリガーゼとして機能する C 末端 HECT (E6AP 型 E3 ユビキチンタンパク質リガーゼ) ドメインを含むタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は、抗アポトーシスタンパク質 Mcl1 (骨髄性細胞白血病配列 1 (BCL2

関連)) のユビキチン化とそれに続く分解に必要です。このタンパク質は、p53 腫瘍抑制因子、コアヒストン、および DNA ポリメラーゼ β もユビキチン化します。この遺伝子の変異は、ターナー型 X 連鎖症候群性精神遅滞と関連しています。[RefSeq 提供、2013 年 8 月]、疾患: HUWE1 および HSD17B10 に関連する染色体微小重複は、精神遅滞 X 連鎖型 17 (MRX17) の原因です [MIM:300705]。精神遅滞 X 連鎖性 31 型 (MRX31) と呼ばれる。精神遅滞は、適応行動の障害を伴う、発達期に発現する、平均を著しく下回る全般的な知的機能の特徴を持つ。身体的、神経学的、および/または精神医学的症状も併発する症候群性または特異的 X 連鎖性精神遅滞とは対照的に、非症候群性 X 連鎖性精神遅滞の主な症状は知的障害のみである。、疾患: HUWE1 の欠陥は、症候群性 X 連鎖性ターナー型精神遅滞 (MRXST) [MIM:300706] の原因である。精神遅滞および大頭症候群としても知られる。MRXST は臨床的に変動を示す。関連する表現型には、大頭症およびさまざまな拘縮があります。、ドメイン:HECT ドメインは、p53 の転写活性の阻害を媒介します。、機能:E3 ユビキチン - タンパク質リガーゼは、標的タンパク質のユビキチン化とそれに続くプロテアソーム分解を媒介します。MCL1 のポリユビキチン化と分解を触媒することでアポトーシスを制御します。また、p53 腫瘍抑制因子やコアヒストン (H1、H2A、H2B、H3、H4) もユビキチン化します。プレプロダイノルフィン遺伝子上流のイニシエーター様配列に結合します。MYCN のポリユビキチン化と分解を触媒することで、神経分化と増殖を制御します。DNA 損傷後の CDC6 の豊富さを、ポリユビキチン化して CDC6 を分解に誘導することで制御する可能性があります。、経路:タンパク質修飾;タンパク質のユビキチン化。、PTM:チロシンがリン酸化されています。リン酸化は、TP53 のトランス活性化を阻害する能力に必要であると考えられます。、PTM:DNA が損傷すると (おそらく ATM または ATR による) リン酸化されます。、配列注意:キメラ cDNA で、ATP5I の C 末端部分を含みます。、類似性:TOM1/PTR1 ファミリーに属します。、類似性:1 つの HECT (E6AP 型 E3 ユビキチン タンパク質リガーゼ) ドメインを含みます。、類似性:1 つの UBA ドメインを含みます。、類似性:1 つの UIM (ユビキチン相互作用モチーフ) リピートを含みます。、類似性:1 つの WWE ドメインを含みます。、細胞内位置:精原細胞、一次精母細胞、神経細胞の核を除くほとんどの組織の細胞質で主に発現します (類似性による)。一部の大腸癌細胞では、主に細胞質または核周縁部に発現する。、サブユニット: CDKN2A のアイソフォーム p14ARF と相互作用し、HUWE1 ユビキチンリガーゼ活性を強く阻害する。MYCN および CDC6 と相互作用する。、組織特異性: 心臓、脳、胎盤で弱く発現するが、他の組織では発現しない。多くの細胞株で発現しており、主に大腸癌由来の細胞株で発現する。、

研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解;

画像データ



パラフィン包埋ヒト脳腫瘍の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。